



おかえり祭り



手取川を遡る鮭



美川仏壇

と安全を祈願します。

旧美川町には自然が豊富に残されています。

春、海辺からの心地よい風に誘われるかのように、シロウオが狙上し、スベリ漁が営まれます。そして、そのような中、ユリカモメや白サギ、ツバメが川べりや田園地帯の宙を舞い、鮭の稚魚の放流も始まります。

夏になると、日本の渚百選のひとつである小舞子海岸では、若者たちが夕日を眺めながら、ゆく夏を惜しむかのように、ひとときを過ごします。

秋には、島清恋愛文学賞の贈呈をはじめ、さまざまな行事が行われ、手取川には遠い旅を終えた鮭たちが帰ってきます。

そして冬、日本海から吹きつける季節風の中、美川の人の心は、やがて訪れる春に向けて大きくふくらんでいきます。



(小松空港まで)

●東京より	約1時間	●福岡より	約1時間10分
●札幌より	約1時間30分	●鹿児島より	約1時間20分
●仙台より	約1時間10分	●那覇より	約2時間
●広島より	約1時間10分		

観覧時間／午前9:00～午後5:00

観覧料／月曜日、年末年始

観覧場料／大人300円・団体20名以上200円・中学生以下無料

観覧場料／大人300円・団体20名以上200円・中学生以下無料

(興竹文庫まで徒歩15分)

手取川流域の交流拠点

石川ルーツ交流館

〒929-0215 石川県白山市美川南町ヌ138番地1
TEL (076) 278-7111 FAX (076) 278-7177

手取川流域の交流拠点 石川ルーツ交流館

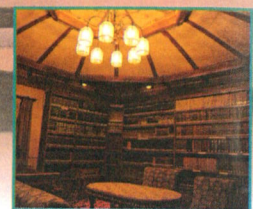
明治5年、
美川で
石川県が誕生した。



白山、手取川から日本海へ。
美川を学ぶと、
石川県が見えてくる。



美川餅



興竹文庫

旧美川町は石川県の西南にあり、北は日本海に面しています。霊峰白山を源にした手取川の河口に位置し、県都金沢市と小松市の中間にあつて、緑豊かな環境に恵まれています。江戸時代、港町として栄えた面影を今に残し、静かな息遣いの中で歴史と文化を育んできました。

明治初期の合併にあたり、能美郡と石川郡の一字ずつをとり、手取川の清流にちなんで、「美川町」と名付けられました。

明治5年(1872)には、県の中央ということで、一時、県庁が置かれ、石川郡美川町であることから、「石川県」という名が生まれています。いわば美川町は「石川県のルーツの町」とも言えるのです。

承応元年(1652)に町奉行所が置かれ本吉町となり、北前船での繁栄は、『おかえり祭り』の豪壮さにその名残を留めています。毎年5月には、台車と呼ばれる山車に先導され、神様が御旅所に神幸されます。また本宮への帰りの道中では、道筋にあたる家々で客をもてなし、報恩感謝と未来永劫の繁栄

歴史、伝統、自然 石川県のルーツは、美川にある。

石川ルーツ交流館では、古くから栄えた美川の歴史、文化を紹介するとともに、手取川流域の交流拠点としての場を広く提供します。まず、石川県最大の手取川をテーマに、氾濫を重ねた様子や治水工事を始め、川の構造を紹介し、そこに生息する鳥、魚及び植物の展示を行い、流域の民話を紹介します。次に、美川町繁栄の原動力となった北前船をテーマに資料を展示します。石川のルーツ館では石川県庁をテーマに、石川郡の美川町に置かれたことから県名を「石川県」とし、初代知事に内田政風が就任した経緯等を振り返ります。北前船での繁盛ぶりは、祭りにも如実に現れ、台車（だいがるま）と呼ばれる山車が13台も練る「おかえり祭り」は、絢爛豪華で天下の奇祭といわれ、台車に祀られている人形を展示します。また、多くの皆様に協力をいただきましたところの、町のお宝を展示していきたいとも考えております。名鑓町民顕彰室では、旧美川町出身の政治家「奥田敬和氏」の生涯を、遺族や友人、知人の協力をいただいて紹介します。石川ルーツ交流館は、手取川の清流が日本海に面した河口に位置し、霊峰白山を仰ぎ見る風光明媚な場所にあります。周辺には、島清ポケットパークや日本庭園が整備され、多くの皆様をお迎えします。



明治初期の石川県庁正門を復元



●手取川の豊かな自然

手取川流域に生息する鳥、魚等をジオラマを使って紹介し、毎年秋に遡上する鮭の剥製を展示しております。



●手取川おはなし絵巻

手取川流域に昔から伝わる民話を、上流から下流まで一堂に紹介し、絵本としても備え付けてあります。

●北前船のロマン

一航海、千両といわれた北前船の船いの様子を、本吉浜の所縁の品にこだわり展示し、豪勢な当時は驚びます。

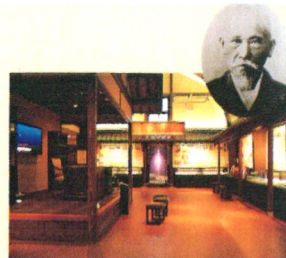


●手取川の恩恵と試練

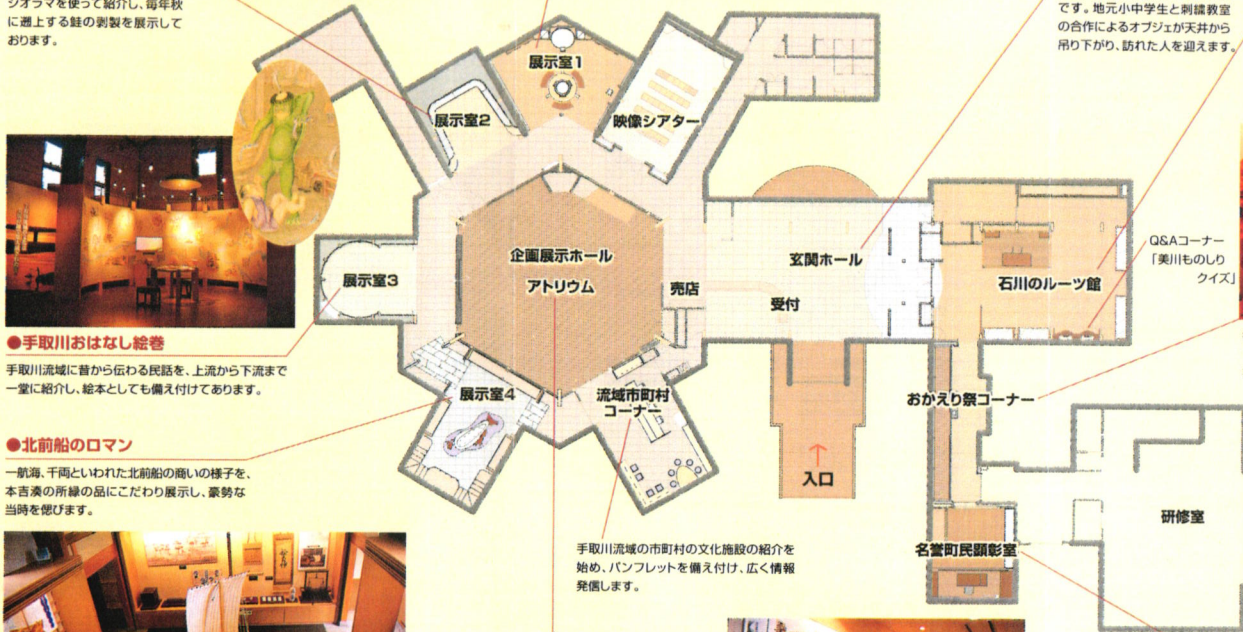
有史以来、氾濫を繰り返した手取川の治水の歴史や川の構造、昭和9年の洪水の様子を紹介し、リアルタイムで河川情報も提供します。

●美川人の技

美川の伝統工芸は、仏壇と刺繍です。地元小中学生と刺繍教室の合作によるオブジェが天井から吊り下がり、訪れた人を迎えます。



明治5年(1872)に開庁した石川県庁の知事室を再現し、初代知事内田政風が映像により、当時を振り返ります。旧美川町に古くから伝わるお宝の展示も、行っています。



さまざまな展示会やイベントなどが行われる多目的スペースです。



通路では、旧美川町が発刊する文集「おかえり短文」と、町のさまざまな風景を紹介しています。



毎年5月に行われる彦根神社の「おかえり祭り」に練る13台の台車。その台車に飾られている人形や所縁の品々を、音と映像で情緒豊かに紹介します。



旧美川町名鑓町民の奥田敬和氏(政治家)の生涯を遺品や肉声で紹介しています。